
恋が始まる！？

さち子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋がはじまる!?

【Nコード】

N8679E

【作者名】

さち子

【あらすじ】

普通の女の子の千鶴。偶然ある男の子と出逢って……？

N o ' 0 0 出 会 い (前 書 き)

楽しんで見てください！

さあ本編GO！！

No.00 出会い

今日の天気は晴れ。昨日、雨が降っていたせいかとても暑い。
私はカレンダーを一枚破る。

8月10日

今日は親友の紀香のじかと勉強会をする予定だ。
面倒くさがりな性格から夏休みの課題はたまりにたまっている。
紀香としたらなんとなく出来る気がする。
そんな事を考えていたら額から汗が流れてくる。
まだ洗剤の匂いがあるハンカチでそつと汗を拭いた。
紀香と約束の時間は10:00。紀香の家に集合だ。
約束の時間までまだまだある。
一休みして本でも読もうかな？
それとも天気が良いから外に出かけようかな？
私はお気に入りの本を手を持って玄関に向かった。
履き慣れた青いサンダルに手を伸ばす。

浜田千鶴（はまだちづる）

来年中学1年生になる第一小学校の6年生。

玄関のドアを思いっきり開けた。
外は蒸し暑い。
やっぱり家でゆっくりしておこうかな？
再びドアノブに手を伸ばした。
その時、

ブワッ

蒸し暑さを吹き飛ばす風がおこった。

「気持ちいい」

思い切り私は手を伸ばした。

その時、私の黒い髪の毛の高い位置でまとめていたポニーテールに付けていた淡いピンクのリボンがハラリと風に乗ってどこかに行ってしまった。

お気に入りのリボンなのに……。

私は本を玄関の前に置いてリボンの行った方向を追いかけた。

リボンはふわふわと風に乗っていき、いつの間にか来年から私が通う第一中学校の前まで来ていた。

リボンは第一中学校の校門前でパタリと落ちてしまった。

「はぁ……はぁ……」

リボンを手に取ると再び家の方向へ帰り始めた。

「千鶴　！！」

私を呼ぶ声がした。

振り返るとそこには学ランをきた男の人が立っていた。

髪は茶色で身長は私よりちょっと高くらい……。

落ち着いた感じの声。なんだろ？すごく甘酸っぱい匂いがする……

……でも……この匂い前にもかいだ事があるような気がする……

……。

「千鶴だろ？」

その男の子は私の名前を知っていた。

「何で私の名前……？」

私がつたねるとその男の子は

「何で？覚えてないの？　あぁ……そうか。千鶴。俺ね千鶴

の事なら何でも知ってるんだ。」

No.000 出会い(後書き)

どうでしたか？

No.01 楽しみにしていてください！！

評価や感想よろしくお願い致します！！

No.01 勉強会(前書き)

あんまり男の子が出てきてないのでおもしろくないかも・・・。
でも読んでいただけると嬉しいです。

No.01 勉強会

「千鶴？ どうしたの？」

心配そうに紀香がたずねてきた。

今、私は紀香と勉強会をしている。

でも全然勉強なんか手につかない。

ただあのリボンを手にとって見つめている。

なんだかドキドキしている。

「なんかいい事でもあったの？」

紀香の目はわくわくとしていた。

外は夕焼け空。虫の声がこだましている。

「ぜんぜん！！」

わざとらしく答えた。

私、嘘は苦手な方で……

しかも親友の紀香に嘘をつくなんて……

ゴクンッ

喉がなった。

ジワッ

手に汗をかいた。

紀香の部屋はエアコンがちゃんと付いていてちょうどいい温度なのにこんなにも汗をかいている。

次第に額からも汗が出てくる。

「千鶴？ 汗すごいよ！」

そう言っつて紀香は花柄のワンピースのポケットからハンカチを取り出し私に差し出した。

「ごめんごめん」

私は紀香からハンカチを受け取り、額にあてた。

フワッ

紀香の匂いがする。

なんて言うのかな？

すぐくすぐく甘い匂い。

私はこの匂いがすぐく好き。

なんだか気持ち落ち着いてきたみたい。

「

私は紀香にあの男の子の話をした。

紀香に話しているのになんだかさっき緊張してたみたいに顔が熱くなる。

紀香はあいづちをうつてくれたり、「うんうん」と真剣に私の話を聞いてくれている。

紀香は大人って感じの女の子。

クールとかとはまた別で。

髪は綺麗な茶色で肩につく位の長さでワンピースに麦わら帽子が似合う。

なんかお姉さんみたいな存在。

私の話を聞き終えた後、紀香は静かにこう言った。

「千鶴。もしかして恋しちゃった？」

No.01 勉強会（後書き）

どうだったでしょうか？

評価・ご感想よろしくお願い致します。

No.02も楽しみにしていて下さい！

No.02 再開(前書き)

やっと謎の男の出番ですよ。
んじゃ本編GO!

No.02 再開

もう日はおちて夜空には綺麗な星が輝いていた。

私は紀香との勉強会の帰り道。

夜はよそ風が気持ち良い。

短いジーパンで素脚むき出しの脚を通り抜ける。

「あゝ…………紀香にあんな言われるなんて思ってもいなかったな……………」

私はコンビニで買った清涼飲料水を口にあてた。

でも紀香の言ってた『恋しちゃった?』って…………私は一体どうなんだろう?

どうして紀香はそんな風に思ったのだろう?

もしかして突然の恋…………!?

「ゴホツゴホツ!」

慣れない事を考えたせいとか私は清涼飲料水を喉につまらせた。

私は人を特別に好きになった事がないのだ。

いわゆる「恋愛未経験者」という奴だ。

みんなに言つとバカにされるから私は誰にも言っていない。

恋…………? 確かに気にはなっている。

どうなんだろう…………?

そういえば何で私の事してるんだろ?

疑問がどんどん増えていく。

「なんか夜がこわくなってきたな…………」

バツ!!

誰かが私の肩をつかんだ。

「なっ何…………?」

変質者だ…………!!!!

手を振り払ってもその人は動かない。

どうしよう〜

「千鶴？」

ん………？ 誰かの声だ。誰だったかな？
な〜んか落ち着いてるかんじの……。

フワッ

あっ！ この匂いは……！！！！

「千鶴だろ？ ……やっぱり……！！」

あっあの男の人……！！

こっちを向いてニコツと笑う。

うわ ……！！！！ なんかドキドキするよー！！

別に制服以外の格好がカツコイーなんて思っただけから！

別に笑顔が素敵なんて思っただけから！

別に……好きとかじゃないんだから……！！！！

待てよ。私、何でこんなにムキになってんだ？

そっだ！

紀香があんな事言うから〜！

私の頭の中で

紀香の言葉を思い出す。

『もしかして恋しちゃった？』

『もしかして恋しちゃった』

『もしかして』

あ〜もう……！！！！

紀香め……！！！！

「どうしたの？」

私の顔を覗き込む。

「別に……」

顔めっちゃ近いですよん！

No.02 再開(後書き)

どうでしたか？

まあ何となく話にはなってると思ってんですけど……。
評価・ご感想よろしくお願い致します。

No.03 男の正体！？（前書き）

男の子が重要な人物になってきましたよー！！！！

「どこか？ どこかってどこよ!？」
「って何でこんなに興奮してんだろ？」
でも……何だか知りたい。」

あなたの事

季節は夏。

何かが始まる予感

N o . 0 3 男の正体!?(後書き)

どうでしたか?

ご感想・評価お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8679e/>

恋がはじまる！？

2010年10月11日23時12分発行